

新国立劇場 開場20周年記念特別公演
 新国立劇場 2017/2018 シーズンオペラ

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン

フィデリオ

Fidelio

新制作

2018年5月20日(日)~6月2日(土)

会場: 新国立劇場オペラパレス

高らかに響く自由への賛歌。理想主義が昇華した、ベートーヴェン唯一のオペラ。

正義、自由、そして愛を崇高な音楽で描いた、楽聖ベートーヴェン唯一のオペラ『フィデリオ』。

各地の劇場でこけら落としなど特別な機会に上演されるこの祝祭的作品を、新国立劇場開場 20 周年を記念し新制作上演します。

『フィデリオ』は、不当に監禁された夫を、男装した妻レオノーレが救い出す物語。苦悩から解放へ、闇から光へ、古典派ならではの劇的迫りに満ちた音楽がドラマを導き、神聖で高らかな合唱が圧倒的なカタルシスをもたらすフィナーレでは、のちの『第九』へとつながるベートーヴェンの理想主義が、音楽を愛するすべての人の感動を呼びます。新国立劇場開場 20 周年を寿ぐ『フィデリオ』は、すべての舞台ファン、音楽ファン必聴です。

世界的注目を集める、カタリーナ・ワグナーの新演出。

注目の演出は、作曲家リヒャルト・ワグナーのひ孫であり、バイロイト音楽祭総監督として世界のオペラ界の最前線をリードする若き女性演出家カタリーナ・ワグナー。斬新な視点で知られるカタリーナ・ワグナーがベートーヴェンの深い哲学をいかに視覚化するのか、その新演出には世界のオペラ界の熱い注目が集まっています。

ドイツ音楽に特に造詣が深く、ベートーヴェンを長年探求してきた飯守泰次郎芸術監督が、任期 4 年の最終盤を迎え、自ら入魂の指揮。出演者にはステファン・グールド、リカルダ・メルベート、妻屋秀和ら飯守監督の信頼厚い内外のトップ歌手が勢ぞろいし、万全の布陣で上演致します。

新国立劇場から世界へ問う『フィデリオ』にご注目ください。

 協賛: **TOYOTA**

＜資料・写真のご請求、ご取材のお問い合わせ＞
 新国立劇場 制作部オペラ 広報担当 高梨木綿子
 Tel: 03-5352-5733 / Fax: 03-5352-5709
 E-Mail: takanashi_y2525@nntt.jac.go.jp

フィデリオ

全 2 幕(ドイツ語上演/字幕付)

初演: (初版)1805 年 11 月 20 日/アン・デア・ウィーン劇場
(第二版)1806 年 3 月 29 日/アン・デア・ウィーン劇場
(第三版)1814 年 5 月 23 日/ケルトナートーア劇場(ウィーン)
作曲: ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン
台本: (初版)ヨーゼフ・フォン・ゾンライトナー
(第二版の改訂者)シュテファン・フォン・プロイニング
(第三版の改訂者)ゲオルク・フリードリヒ・トライチュケ

高らかに響く自由への賛歌。理想主義が結実したベートーヴェン唯一のオペラ。

新国立劇場開場 20 周年を記念し、正義、自由、愛を崇高に描いたベートーヴェン唯一のオペラ『フィデリオ』を新制作します。『フィデリオ』は、不当に監禁された夫を、男装した妻レオノーレが救い出す物語。ベートーヴェンの理想主義精神そのものが昇華しており、正義、愛、自由への解放というテーマ、圧倒的感動を呼ぶフィナーレから、『アイダ』と並び各地の劇場の柿落しなどの大きな節目、特別な機会に上演されることの多い祝祭的作品です。第二次世界大戦後、占領からの解放翌月の 1955 年 11 月、再建されたウィーン国立歌劇場復興公演も『フィデリオ』で行われました。

1805 年の初版発表から9年をかけ改訂が重ねられ、改訂の度に書き直された序曲や「囚人の合唱」は独立して演奏されることも多い名曲です。聴きどころには第 1 幕のカノンの四重唱やレオノーレの大アリア〈悪者よ！どこに急ぐのか〉、第 2 幕のプロレスタンの絶望のアリア〈神よ、ここは何と暗いことか〉などがあります。古典派の整然とした響きは劇的迫力に満ち、最終場では高らかな合唱がカタルシスをもたらします。

世界的注目を集める、カターリーナ・ワグナーの新演出。

演出にはリヒャルト・ワグナーのひ孫であり、現バイロイト音楽祭総監督として注目を集める若き演出家カターリーナ・ワグナーを迎えます。斬新な視点の演出で知られるカターリーナ・ワグナーが東京で行う新演出には、世界のオペラ界の注目が集まっています。

指揮はドイツ音楽に造詣が深く、このオペラをこよなく愛する飯守泰次郎芸術監督が務めます。フロレスタンにステファン・ゲールド、レオノーレにリカルダ・メルベートと世界最高峰の歌手が登場。国内外のアーティストやメディアから高く評価されている新国立劇場合唱団の演奏にもご期待ください。

■『フィデリオ』の奥深さに徹底的に迫る

飯守泰次郎

『フィデリオ』は、ベートーヴェンが作曲した唯一のオペラです。ベートーヴェンは、『英雄』『運命』『第九』等の交響曲に代表されるように、「音楽によって人々をより崇高な世界へと導きたい」という熱狂的な欲求を持っていた、特別な作曲家です。

当時のオペラは、恋のもつれや嫉妬、裏切りなど、生の人間の姿を等身大で楽しみ、美しい声と歌唱の技巧を堪能するものでした。ベートーヴェンはそのような娯楽性を受け入れることができず、自分の理想に合致する台本を探し求めて苦勞しました。そして、フランス革命の時代を背景に流行した「救出劇」と呼ばれる題材の中に、「より良く、より高貴な人間像」を描くにふさわしい、権力闘争に勝利する気高い夫婦愛、という崇高なテーマを見出したのです。

第1幕は世俗的で小市民的な場面から始まりますが、監獄所長ドン・ピツァロが登場すると、物語は一気に絶望と闘争に焦点が絞られていきます。歌とセリフで物語が進行するジグシュピール(歌芝居)と、最終場面のオラトリオのような合唱を、ひとつのオペラとして成り立たせているのは、やはりベートーヴェンの音楽の圧倒的な力です。

男装してフィデリオという偽名を使い、夫を救うために命を賭けて監獄に乗り込むレオノーレが、内心から沸きあがる決意と希望を歌い上げるアリアは、女性に対するベートーヴェンの高い理想像が凝縮されています。「囚人の合唱」では、「闇から光へ」というベートーヴェンの一生を貫くテーマが、感動的な響きで歌われます。第2幕で、長く地下牢に幽閉されているフロレスタンが初めて登場するアリアも、高潔な人格が見事に表現されています。

そして、フィナーレの合唱「素晴らしい妻を得た者はこの歓呼に参加せよ」は、その後もベートーヴェンの中で一生かけて温められ、20 年後に作曲する『第九』で交響曲史上初めて用いられた声楽によって、同じ内容が再び高らかに歌われることになるのです。

『フィデリオ』、および交響曲を中心とするベートーヴェンの作品が、音楽史の流れを革命的に変えたことは、もはや言うまでもありません。しかし現代の社会は、「偉大なベートーヴェン」に慣れてしまい、私たちに語りかけるベートーヴェンの力強い本質にはいまだ到達できていないように思われます。『フィデリオ』が作曲されたのは、ヨーロッパにおける時代の大きな転換期でした。私たちが今、同じような転換期に生きています。新国立劇場 20 周年という節目こそ、彼の唯一のオペラの内容に改めて深く切り込むべき時、と考え、世界のオペラの次世代を担う特別な演出家であるカタリーナ・ワーグナーに演出を依頼しました。皆さまとともに『フィデリオ』の真の奥深さに徹底的に迫り、私の新国立劇場オペラ芸術監督としての4年間を締めくくりたいと思います。

■『フィデリオ』ものがたり

【第1幕】18世紀セビリア近くの監獄の中庭。門番ジャキーノは、看守ロッコに娘マルツェリーネが最近冷たいと気にしている。彼女は監獄で働き始めたフィデリオ(実は男装したレオノーレ)が気になっていた。フィデリオを気に入ったロッコと他の三人とで四重唱が歌われ、フィデリオはロッコに「地下牢で働かせてほしい」と訴える。監獄所長ドン・ピツァロが現れ、手紙の中に密書を見つける。彼はそれを読んで大臣が視察に来ると知り、政敵フロレスタンの幽閉が露見すると身の破滅だと歌い、フロレスタン殺害を決意する。夫フロレスタンを助けるべく獄中に入り込んだレオノーレは、ピツァロに視線を向け、大アリア〈悪者よ！どこに急ぐのか〉を歌う。囚人たちが中庭に出てきて、久しぶりの陽光に喜ぶ。ピツァロは、ロッコが許可なく囚人を外に出したことを咎め、急いで墓を掘るよう命じる。

【第2幕】フロレスタンの繋がれている地下牢にロッコとレオノーレが来て、墓を掘り始める。レオノーレは囚人を一瞥し夫と確かめ、囚人にワインとパンを与える。彼は妻だと気付かぬまま感謝する。ピツァロが現れフロレスタンを殺そうとする瞬間、レオノーレが立ちふさがり「彼の妻から殺せ！」と叫ぶ。そのとき大臣到着を告げるラッパが聞こえ、ピツァロは戻らざるを得なくなる。大臣の前でフロレスタンは解放され、妻と抱きあう。ピツァロは逮捕され、歓喜のうち幕となる。

＜主要キャスト・スタッフプロフィール＞

【指揮】飯守泰次郎

1940年生。62年桐朋学園短期大学音楽科(指揮科)卒業。61年に藤原歌劇団公演『修道女アンジェリカ』にてデビュー。66年ミトロプーロス国際指揮者コンクール、69年カラヤン国際指揮者コンクールとともに第4位入賞。72年に芸術選奨新人賞とバルセロナのシーズン最高指揮者賞を受賞。72年から76年まで読売日本交響楽団指揮者、70年からバイロイト音楽祭の音楽助手として数々の歴史的公演に加わり、ブレーメン、マンハイム、ハンブルク、レーゲンスブルクの各歌劇場にも指揮者として籍をおいた。エンスヘデ市立歌劇団第一指揮者を経て、79年から95年までエンスヘデ市立音楽院オーケストラ指揮者。93年より98年まで名古屋フィルハーモニー交響楽団常任指揮者。97年より東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団常任指揮者、2012年4月より同団桂冠名誉指揮者。01年から10年まで関西フィルハーモニー管弦楽団常任指揮者、11年から同団桂冠名誉指揮者。第32回(2000年度)サントリー音楽賞、第54回(2003年度)芸術選奨文部科学大臣賞受賞。04年11月紫綬褒章、08年第43回大阪市市民表彰、10年11月旭日小綬章を受章。12年度文化功労者および日本芸術院賞。14年より日本芸術院会員。第56回(2014年度)毎日芸術賞(音楽部門)受賞。新国立劇場では、00年『青ひげ公の城』、08年地域招聘公演『ナクソス島のアリアドネ』、12年オペラ研究所公演『フィレンツェの悲劇』『スペインの時』、14年『パルジファル』、15年『さまよえるオランダ人』『ラインの黄金』、16年『ローエングリン』『ワルキューレ』、17年『ジークフリート』『神々の黄昏』を指揮している。

14年9月より新国立劇場オペラ芸術監督。

IIMORI Taijiro



【演出】カタリーナ・ワーグナー

リヒャルト・ワーグナーのひ孫であり、2015年からバイロイト音楽祭総監督。ベルリン自由大学で劇場学を学び、現在バイロイトとベルリン在住。これまでの演出作品に、ヴェルツブルクでの『さまよえるオランダ人』、ダバペストでの『ローエングリン』、ミュンヘンのゲルトナープラッツ州立劇場のロルツィング作曲『刀鍛冶』、ベルリン・ドイツ・オペラのプッチーニ三部作、マインツでの『蝶々夫人』とオイゲン・ダルベール作曲『低地』、ブレーメン劇場『リエッツィ』、カナリア諸島ラス・パルマスで『タンホイザー』がある。バイロイト音楽祭には07年夏に『ニュルンベルクのマイスタージンガー』で演出家デビューし、15年には『トリスタンとイゾルデ』(ティーレマン指揮)を演出。10/11シーズン冬季からハンス・アイスラー音楽大学ベルリン演出学部名誉教授。異母姉のエファ・ワーグナー＝パスキエとともに、10年にB.Z.紙文化賞、12年バイエルン文化賞を受賞。13年にはオーストリア・

Katharina WAGNER



報道用資料

ブルゲンラント州政府よりブルゲンラント州栄誉勲章受章。

【ドン・フェルナンド】黒田 博

京都市立芸術大学卒業、東京藝術大学大学院修了。1988年『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロールでオペラデビュー。これまでに『ラ・ボエーム』『ニュルンベルクのマイスタージンガー』『エウゲニオ・オネーギン』などに出演。最近では東京二期会『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロール、『パルジファル』アムフォルタス、びわ湖ホール・神奈川県民ホール『タンホイザー』ヴォルフラム、びわ湖ホール・神奈川県民ホール『椿姫』ジェルモン、びわ湖ホール・iichiko総合文化センター・神奈川県民ホール『オテロ』イアーゴなどに出演。新国立劇場では『天守物語』姫川図書之助、『こうもり』ファルケ博士、『忠臣蔵』堀部安兵衛、『俊寛』タイトルロール、『愛怨』若草皇子、『黒船一夜明け』吉田、『軍人たち』マリ大尉、『修禅寺物語』面作師夜叉王、『鹿鳴館』影山悠敏伯爵、『夜叉ヶ池』学円、『沈黙』フェレイラ、『ラインの黄金』ドンナー、オペラ鑑賞教室『フィガロの結婚』アルマヴィーヴァ伯爵などに出演。二期会会員。

KURODA Hiroshi



【ドン・ピツァロ】 ミハエル・クプファー＝ラデツキー

Michael KUPFER-RADECKY

2000年より定期的にチロル音楽祭に招かれ、『ニーベルングの指環』ヴォータン、グンター、『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロールなどに出演。最近では、マリンスキー劇場およびクラゲンフルト市立劇場『サロメ』ヨハナーン、ミラノ・スカラ座およびパリ・オペラ座で『ニュルンベルクのマイスタージンガー』ハンス・ザックス、ベルリン・ドイツ・オペラおよびポリショイ劇場『ばらの騎士』ファーニナル、ハンガリー国立歌劇場『ワルキューレ』ヴォータン、バーゼル歌劇場『エレクトラ』オレストなどに出演している。今後の予定にチロル音楽祭『パルジファル』クリングゾルなどがある。2014年にマリンスキー劇場管弦楽団とともに来日している。新国立劇場初登場。



【フロレスタン】ステファン・グールド

Stephen GOULD

アメリカのヴァージニア州生まれ。これまでにウィーン国立歌劇場、ザクセン州立歌劇場、パイロイト音楽祭、バイエルン州立歌劇場、メトロポリタン歌劇場などに出演。パリ、ロンドン、ローマ、パレルモ、ベルリン、ハンブルクなどヨーロッパ各地の歌劇場で活躍。『フィデリオ』フロレスタン、『ローエングリン』『タンホイザー』『ジークフリート』『パルジファル』タイトルロール、『神々の黄昏』ジークフリート、『トリスタンとイゾルデ』トリスタンなどをレパートリーとする。最近ではパイロイト音楽祭、ベルリン・ドイツ・オペラ、ハンブルク州立歌劇場、バイエルン州立歌劇場の『トリスタンとイゾルデ』、ウィーン国立歌劇場『パルジファル』『ピーター・グライムズ』『トリスタンとイゾルデ』『ジークフリート』『神々の黄昏』『ナクソス島のアリアドネ』、ザクセン州立歌劇場『ジークフリート』『オテロ』、ベルリン・ドイツ・オペラ『タンホイザー』などに出演。今後の主な予定に、バーデン＝バーデン復活祭音楽祭『パルジファル』、ウィーン国立歌劇場『ジークフリート』『神々の黄昏』、ザクセン州立歌劇場『タンホイザー』『ナクソス島のアリアドネ』に出演予定。新国立劇場では2006年『フィデリオ』フロレスタン、09年『オテロ』タイトルロール、10～11年『トリスタンとイゾルデ』トリスタンに出演。さらに15年『ラインの黄金』ローゲ、16年『ワルキューレ』ジークムント、17年6月『ジークフリート』、10月『神々の黄昏』ジークフリートと『ニーベルングの指環』全4作品に出演して絶賛を博した。



【レオノーレ】リカルダ・メルベート

Ricarda MERBETH

ドイツのケムニッツ生まれ。現代を代表するドラマティック・ソプラノのひとり。1999年ウィーン国立歌劇場専属歌手となり、フリーとなった後も『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・アンナ、『フィガロの結婚』伯爵夫人、『タンホイザー』エリーザベト、『ローエングリン』エルザ、『ワルキューレ』ジークリンデ、『ばらの騎士』元帥夫人などで出演している。パイロイト音楽祭には2000年『ニーベルングの指環』フライアほかでデビューの後、02～07年『タンホイザー』エリーザベト、13年～16年『さまよえるオランダ人』ゼンタで出演した。最近の主な出演にベルリン・ドイツ・オペラ『タンホイザー』ヴェーヌス、『ジークフリート』ブリュンヒルデ、『トゥーランドット』タイトルロール、ウィーン国立歌劇場『ローエングリン』エルザなど、ハンブルク歌劇場およびトリノ王立歌劇場、ネザーランド・オペラでの『トリスタンとイゾルデ』イゾルデなどがある。今後の主な出演予定に、ウィーン国立歌劇場『フィデリオ』レオノーレ、ミラノ・スカラ座『エレクトラ』タイトルロールなどがある。新国立劇場では06年『コジ・ファン・トゥッテ』フィオルディリージ、07年『タンホイザー』エリーザベト、12年『ローエングリン』エルザ、15年『さまよえるオランダ人』ゼンタに出演している。17年6月には『ジークフリート』ブリュンヒルデに、12月には『ばらの騎士』元帥夫人にも出演した。



【ロッコ】妻屋秀和

TSUMAYA Hidekazu

東京藝術大学卒業、同大学大学院オペラ科修了。1994年～2001年ライプツヒ歌劇場、02年～11年ワイマールのドイツ国民劇場専属歌手。これまでにベルリン・ドイツ・オペラ、ベルリン州立歌劇場、ライン・ドイツ・オペラ、スコティッシュ・オペラなどに出演。欧州、日本でモーツァルト、ロッシーニ、ヴェルディ、プッチーニ、ワーグナー、R. シュトラウス等のオペラの主要な役を80役以上演じており、新国立劇場では『ラ・ボエーム』コッリーネ、『ドン・ジョヴァンニ』騎士長、『セビリアの理髪師』ドン・バジリオ、『アイダ』ランフィス、『ナブッコ』ベルの祭司長、『夜叉ヶ池』鉦蔵、『リゴレット』スparaフチーレ、『ヴォツェック』医者、『アラベッラ』ヴァルトナー伯爵、『ドン・カルロ』宗教裁判長、『マノン・レスコー』ジェロント、『ばらの騎士』警部、『ラインの黄金』ファフナー、ファーゾルト、『ファルスタッフ』ピストーラ、『魔笛』ザラストロなど出演多数。16/17シーズンは、『セビリアの理髪師』ドン・バジリオ、『カルメン』スニガ、『ルチア』ライモンド、『オテロ』ロドヴィーコに出演。17/18シーズンは18年4月『アイダ』にも出演予定。二期会会員。



【マルツェリーネ】石橋栄実

ISHIBASHI Emi

大阪音楽大学専攻科修了。咲くやこの花賞、大阪舞台芸術奨励賞、音楽クリティック・クラブ奨励賞、坂井時忠音楽賞を受賞。1998年ドイツ・ケムニッツ市立歌劇場『ヘンゼルとグレーテル』にグレーテルで招聘出演。2005年新国立劇場地域招聘公演 大阪音楽大学ザ・カレッジ・オペラハウス『沈黙』オハル、05年兵庫県立芸術文化センターオープニングシリーズ『ヘンゼルとグレーテル』グレーテル、10年いずみホールと15年大阪国際フェスティバル『ランスへの旅』コルテーゼ夫人、『イダメネオ』イーリア、『後宮からの逃走』ブロンデ、『フィガロの結婚』スザンナ、『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・アンナ、ツェルリーナ、『ゴジ・ファン・トゥッテ』デスピーナ、『魔笛』パミーナ、『フィデリオ』マルツェリーネ、『こうもり』アデーレ、『スザンナの秘密』スザンナ、『火刑台上のジャンヌ・ダルク』ジャンヌ・ダルク、『電話』ルーシー、『欲望という名の電車』ステラなど数多くのオペラに出演している。新国立劇場では12年、15年『沈黙』オハル、平成25年度、26年度高校生のためのオペラ鑑賞教室・関西公演『夕鶴』つう、16年『ラ・ボエーム』ムゼッタに出演している。大阪音楽大学准教授。



【ジャキーノ】鈴木 潤

SUZUKI Jun

東京藝術大学大学院にて音楽博士号取得。松田トシ賞、アカンサス音楽賞、三菱地所賞受賞。2010年度に同大学の特別研究員として渡英。これまでに『ドン・ジョヴァンニ』ドン・オッターヴィオ、『魔笛』タミーノ、一柳慧『愛の白夜』ヨーニスなどに出演したほか、ブリテン『カーリユー・リヴァー』狂女役をロンドン、オーフォードで演じ、好評を得た。14年3月にはびわ湖ホール『死の都』にパウル役で出演、絶賛される。新国立劇場では『沈黙』モキチ、『タンホイザー』ハインリヒ、『鹿鳴館』久雄、『パルジファル』小姓3などに出演。最近では15/16シーズン『魔笛』タミーノ、『夕鶴』与ひょうに出演した。二期会会員。



報道用資料

新国立劇場 開場 20 周年記念特別公演
ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン
フィデリオ

Ludwig van BEETHOVEN / Fidelio
全2幕(ドイツ語上演/字幕付)

【公演日程】 2018年5月20日(日)14:00/24日(木)14:00/27日(日)14:00/30日(水)19:00/
6月2日(土)14:00

【会場】新国立劇場 オペラパレス

【チケット料金】 S:27,000円・A:21,600円・B:15,120円・C:8,640円・D:5,400円・Z:1,620円

【前売開始】 2018年1月27日(土)

指揮 飯守泰次郎
Conductor IIMORI Taijiro
演出 カタリーナ・ワーグナー
Production Katharina WAGNER
ドラマツルグ ダニエル・ウェーバー
Dramaturg Daniel WEBER
美術 マルク・レーラー
Set Design Marc LÖHRER
衣裳 トーマス・カイザー
Costume Design Thomas KAISER
照明 クリスティアン・ケムトミュラー
Lighting Design Christian KEMMETMÜLLER

ドン・フェルナンド 黒田 博
Don Fernando KURODA Hiroshi
ドン・ピツァロ ミヒヤエル・クプファー＝ラデツキー
Don Pizarro Michael KUPFER-RADECKY
フロレスタン ステファン・グールド
Florestan Stephen GOULD
レオノーレ リカルダ・メルベート
Leonore Ricarda MERBETH
ロッコ 妻屋秀和
Rocco TSUMAYA Hidekazu
マルツェリーネ 石橋栄実
Marzelline ISHIBASHI Emi
ジャキーノ 鈴木 准
Jaquino SUZUKI Jun
囚人1 片寄純也
Erster Gefangener KATAYOSE Junya
囚人2 大沼 徹
Zweiter Gefangener ONUMA Toru

合唱 新国立劇場合唱団
Chorus New National Theatre Chorus
管弦楽 東京交響楽団
Orchestra Tokyo Symphony Orchestra

協賛 トヨタ自動車株式会社

公演情報 WEB サイト <http://www.nntt.jac.go.jp/opera/fidelio/>

【チケットのご予約・お問い合わせ】 新国立劇場ボックスオフィス TEL:03-5352-9999 (10:00~18:00)

新国立劇場Webボックスオフィス <http://pia.jp/nntt/>

【チケット取り扱い】チケットぴあ、イープラス、ローソンチケットほか

* 2席 1,620円:公演当日朝10時より、新国立劇場 Web ボックスオフィスほかで販売。1人1枚。電話予約不可。

* 当日学生割引(50%)、ジュニア割引、高齢者割引、障害者割引、学生割引など各種割引あり。* 未就学児入場不可。

新国立劇場 WEB サイト <http://www.nntt.jac.go.jp> 東京都渋谷区本町1-1-1 京王新線新宿駅より1駅、初台駅直結。